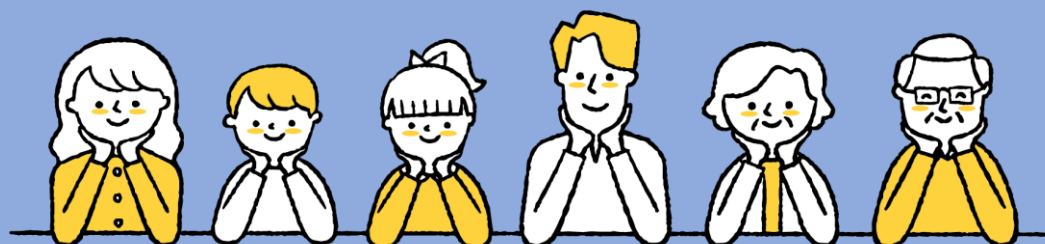


人がつながり、支え合い、チャレンジし続ける
東部まちづくり

Action Plan (案)



2026年度～2028年度



発行 小牧市

あなたは、
東部地域、
好きですか？

私はこのマチ好きだけど
私のことも達は
ここにずっと住んでくれるかな？



最近
高齢化が急速に進んでる
気がする・・・



最近まちに活気がなくなった
気がしない？

多様な人々が生活する小牧の東部地域。

ここで生まれた人、

将来に希望を描いてやってきた人、

様々な人生がここで生まれ、

マチと共に歩んできました。

そんな東部地域が今、

たくさんの課題を抱え、悩んでいます。

2022年3月に策定された「東部振興構想」は、

課題を希望に変えるための指針です。

ここに、あなたの「好き」を足してあげたら、

このマチは、もっと素敵になるはず。

**みんなで協力して取り組む
東部地域のまちづくりに
参加してみませんか。**

一緒にまちづくりをしてみませんか？



一回でも参加してみませんか？

地域の課題は、みんなの課題

まちづくりを自分ごととして捉えることが必要。

だけど、まちづくりって少し面倒。

でも、こんな人口減少が進む時代だからこそ

人のつながりが大事で、人とつながることは

うれしいこと、楽しいこと。

そんな時代に東部地域で進める取組を

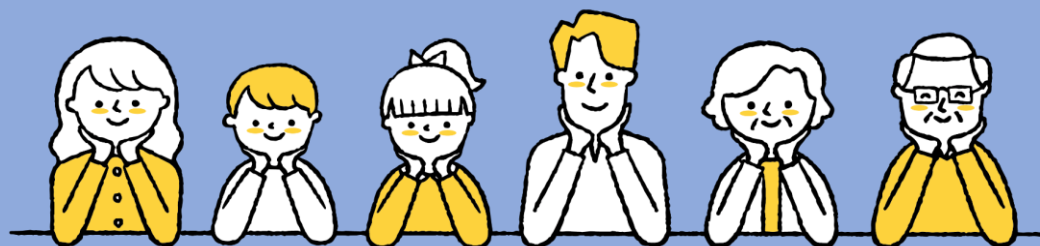
まとめたのがこのAction Plan。

こんな取組に参加したいと思う人を

増やすため、このAction Planを作成しました。

目次

プロローグ	P1
アクションプランと リーディングプロジェクトって何？	P6
東部振興構想とアクションプランの関係	P7
東部まちづくりの進め方	P11
リーディングプロジェクト	P13
新たな取組一覧	P35
実施中の取組一覧	P37
東部まちづくりの進捗確認	P49



アクションプランと リーディングプロジェクトって何？

東部地域のまちづくりの
取組を見える化したものです。



- Action Planとは、
東部振興構想(2022年度～2031年度)
に基づき、今後、3カ年の取組を毎年まとめるものです。
- Leading Projectは、大きくわけ2つのカテゴリーに分けられます。
 - アルファベット表記のリーディングプロジェクト
まちづくりの仕組みづくりや各活動を支援する制度です。
 - 数字表記のリーディングプロジェクト
東部地域で関係者(住民、事業者、団体、学校など)とともに、
新たに実施する取組のほか、これまでの取組を組合せ、
プロジェクトとしたものです。

東部地域では、これまで様々な取組が行わ
れています。

そんな取組みや新たに進める取組などを
多くの人に知ってもらい、
参加してもらいたくて、
リーディングプロジェクトを見える化します。

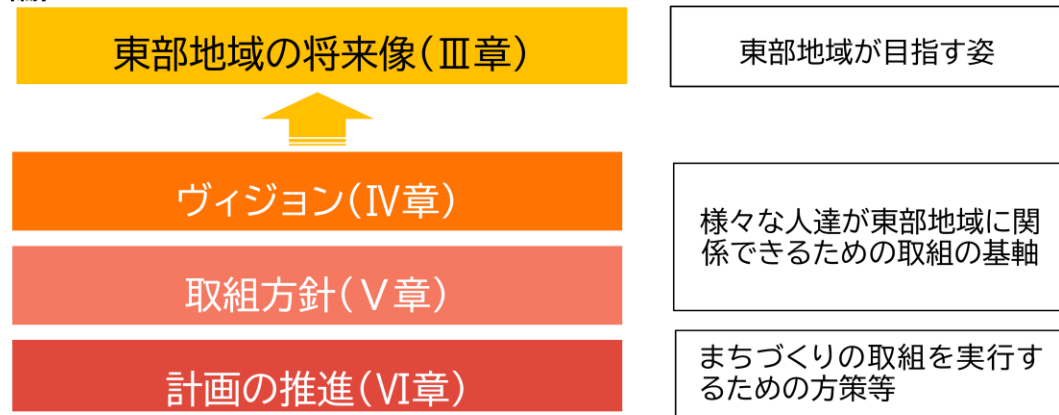




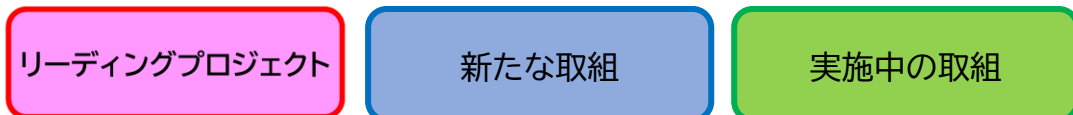
東部振興構想とアクションプランの関係

東部振興構想

〈本編〉



〈別編〉アクションプラン



●東部振興構想の中間見直し

東部振興構想は、期間の中間(5年)で見直すこととしています。東部地域の現状の調査・分析及びこれまでの取組実績の効果・検証を2025年度から進め、2026年度には、取組方針を中心に実情に沿った計画へ見直します。

※東部振興構想の体系は9・10ページにあります。



アクションプランと東部振興構想って、なにがちがうの？



構想は、まちを良くするための「行動のみちしるべ」、アクションプランは、「行動のみちしるべ」に沿って進められる取組をまとめたものだよ。



へ～そうなんだ。でも、アクションプランって具体的にどんなことがまとめられているのかな??



アクションプランは、「リーディングプロジェクト」や「新たな取組」、「実施中の取組」から成る市が毎年策定する3カ年のローリング計画だよ。



なるほど！これをみれば、今、東部地域で、どんなことが進められているかわかるってことだね！！

東部振興構想の体系

●まちづくり5原則〈Ⅲ章〉

一体性	東部地域一体でのまちづくり
自立性	地域住民による自立したまちづくり
多様性・活用性	多様な地域資源を連携・活用したまちづくり

将来像〈Ⅲ章〉

“人がつながり、支え合い、チャレンジし続けるまち”

〈豊かな自然、快適な住環境と多様な産業が共存するまちづくり〉

ビジョン〈Ⅳ章〉

- 多様な人が暮らし続けられるまち
《対象:居住者》
- 多様な職業が共存し、持続できるまち
《対象:就業者》
- 訪れたい、住みたい魅力のあるまち
《対象:来訪者・転入者》

取組方針〈Ⅴ章〉

高齢者	①高齢者が安心して暮らせる環境の整備
子育て世代	②子育て世代にとって魅力ある環境の整備
次世代	③若者が東部地域に愛着を持てる環境の整備
交流	④世代・国籍を越えた住民交流の促進
都市インフラ	⑤都市インフラの有効活用
農業・商工業	①地域の生業が持続・活性化 する環境の整備
新規ビジネス	②新しいビジネスの創出
地域資源	①地域資源の保全、魅力向上 及び発信の強化
住まい	②若年世代も住みたいとなる 住まいの創出
住民活動	③ウェルカムなまちの雰囲気 の創出

柔軟性・可変性

柔軟性・可変性を持ったまちづくり

将来性

チャレンジをサポートするまちづくり

取組の方向(内容)〈Ⅴ章〉

- 支え合い等による日常生活の利便性の向上
- 高齢者のいきがい・居場所づくり

- 地域一体での子育ての仕組みの構築
- 多様な働き方ができる環境の整備

- 地域の知り合いづくりの機会の創出
- 地域を学ぶ(知る)・参加・提案する機会の創出

- 世代を越えた住民の交流機会の創出
- 外国人・日本人住民の交流機会の創出

- 公共空間の活用の促進
- 先進技術を活用した地域内移動の確保

- 農家を支え、発展させる仕組みの構築
- 商工業を支える仕組みの構築
- 農・商・工・福の連携の促進

- ソーシャルビジネスの活動促進
- チャレンジしたい起業家などの活動促進

- 地域資源を活用した新たな魅力の創出
- 公園・緑道等を活用した魅力の発信
- 時代にあった地域魅力の発信

- 既存住宅を活用した新たな住宅供給
- 安全・安心な住環境の整備

- 新たな住民の受け入れ体制・雰囲気づくり
- 新たな住民を呼び込む活動の創出

計画の推進(Ⅵ章)

まちを育む体制の構築

産学官民
方向①
人と人がつながる
仕組みの構築

地域経営
方向②
地域活動の自立性や持続性を
担保する地域経営の取り組み

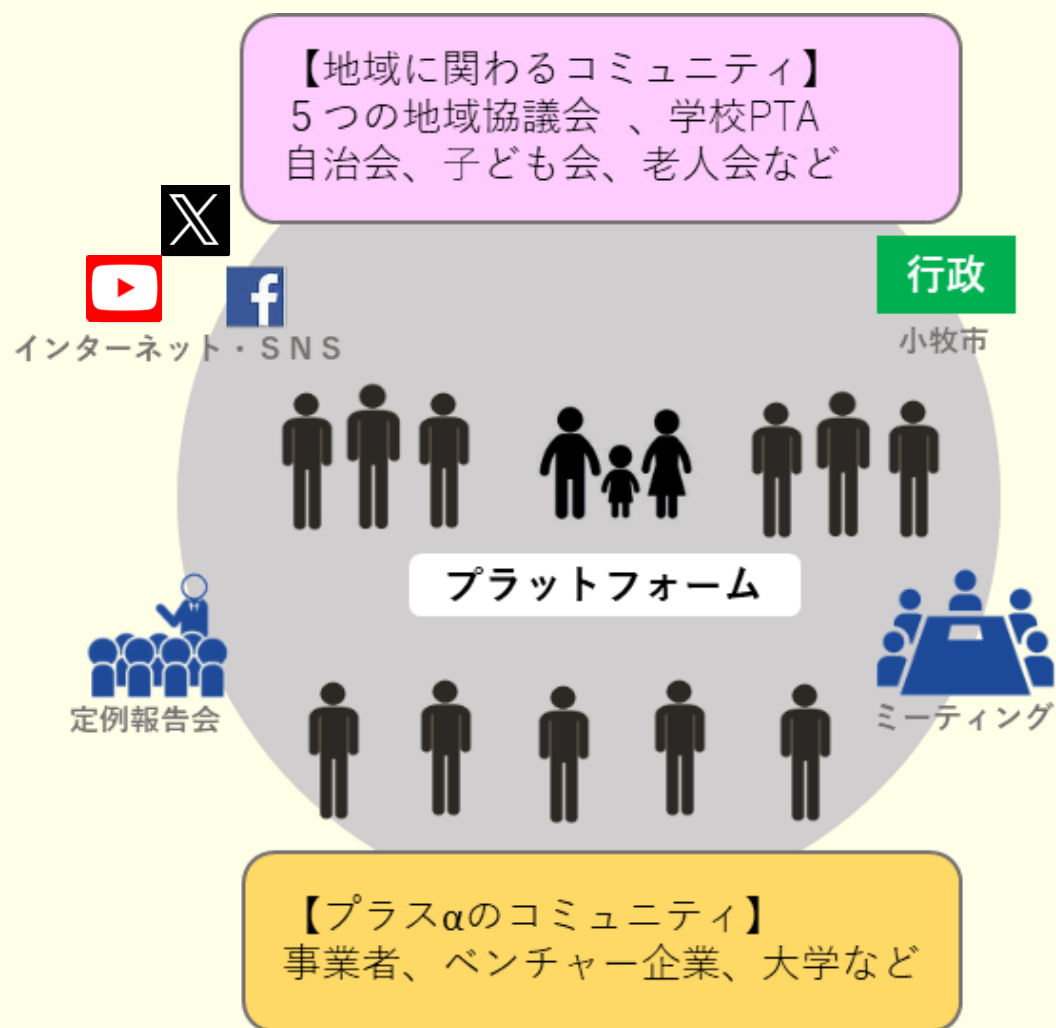
- プラットフォームの構築
- 中間支援組織の活用・育成

- 好循環の地域経済の仕組みの構築
- スタートアップ支援



東部まちづくりの進め方

東部まちづくりプラットフォーム



※東部まちづくりプラットフォーム登録者数

令和7年度	151人
令和6年度	127人
令和5年度	109人
令和4年度	75人



東部まちづくりってどんなまちづくりを目指しているの??



今後の東部まちづくりは、地域住民をはじめ、事業者、教育機関、行政などがつながり、支え合い、チャレンジし続けるまちを目指しているよ。
そのためにも、構想やこのアクションプランを多くの人に知ってもらうことが大切なんだよね。



へ～そうなんだ。
でも、地域住民や事業者、教育機関が
つながる場ってなかなかないよね。ど
うつながっていくのかな??



東部まちづくりに興味のある人、誰
でも集える場として、東部まちづくり
プラットフォームっていう、いろんな人
と対面はもちろん、インターネットや
SNSなど様々なものでつながれ、交流
できる場をつくらうとしているんだよ。



なるほど！
まずは、構想やアクションプランを
広く知ってもらい、この東部まちづく
りプラットフォームに参加する人を増
やしていくことが大切なんだね。



リーディングプロジェクト

《事業期間》

リーディングプロジェクト	令和8年	令和9年	令和10年
A・B	○	○	○
C	○		
1~4	○	○	○

LEADING

A

人と人がつながるプロジェクト
【市(東部まちづくり推進室)】

PROJECT

東部まちづくりプラットフォームの目的である「人のつながる場」を創出します。2022年度にスタートしたトライアル活動の「仲間増やし」や「企画のブラッシュアップ」に加え、東部振興構想に寄与する新たなトライアル活動の創出を目的にワークショップを開催します。

⇒詳細は
21、22ページへ



LEADING

B

まずはやってみようプロジェクト
(トライアル活動支援制度)
【市(東部まちづくり推進室)】

PROJECT

人と人がつながるプロジェクトで、具体化したアイデアや東部地域に関わる方が自発的に提案する新たな取組、既存の取組をさらにブラッシュアップした取組を行政に提案し、実際にトライアルしてみます。



小牧市東部地域のために
活動してみようかな!?
気軽にやってみよう!

⇒詳細は
23、24ページへ

LEADING

C

東部地域まちづくり活動パートナーシップ制度
【市(東部まちづくり推進室)】

PROJECT

東部地域のまちづくり活動が、持続的に、そして地域の力で自立して続けられるよう、地域の事業者などによる支援を受けやすい環境を整えています。

⇒詳細は
25、26ページへ



LEADING

I

こどもマルシェ
【こどもマルシェ実行委員会】

自立2年目

PROJECT

- ①こどもの社会体験の機会創出
- ②育児を頑張るママ・パパへの癒しの提供
- ③子育て世代が交流できる場の創出を目的にこどもマルシェを開催します。

⇒詳細は
27、28ページへ



LEADING

2

あおぞら市場 in 緑道 【桃ヶ丘小学校区地域協議会】

自立2年目

PROJECT

- ①地域の農家さんと地域住民の交流促進
 - ②地産地消の推進
 - ③高齢者の買い物支援
- を目的に桃花台ニュータウンの充実した緑道を使用したあおぞら市場を開催します。

⇒詳細は
29、30ページへ



LEADING

3

リユースバスケット 【リユースバスケット実行委員会】

3年目

PROJECT

- ①空き家の利活用の提唱・促進
 - ②地域住民の集まる場の提供
 - ③若い世代、子育て世代、多世代交流の創出
- を目的に、空き家を活用したイベントの開催や地域の居場所を創出します。

⇒詳細は
31、32ページへ



LEADING

4

子育て世代と高齢者のつながりDIY

【子育て世代と高齢者のつながりDIY】

2年目

PROJECT

DIYワークショップを開催することで、

- ①参加者がDIY技術を習得し、自宅でも再現できるようになります。
- ②作業を通じて、子育て世代や高齢者などの世代間の協力や交流を促進する関係づくりを目指します。

⇒詳細は
33、34ページへ



プロジェクトが目指す成果

顔見知りを増やすことで、多様な人が地域活動、まちづくりに参加し、いろいろな取組のアイデアが議論され、行動の起点の場がつくられています。

プロジェクトの概要

いろんな人とつながろう！！

東部地域には、高齢者、子育て世代、子どもも住んでいて、外国人もいます。

さらには、事業所もあれば、大学もあります。

顔見知りを増やすことで、自分だけでは達成できない課題でも、みんなで協力すれば達成できるかもしれません。

そんな人と人がつながれる場を、まずは行政が設定します。



地域の人のために
マルシェみたいなことが
できないかな



WSへ児童・生徒・学生の参加
先生・教授からのアドバイス

WSへの参加
取組の企画

学校

WSへ社員の参加
取組へのバックアップ

市民(住民、NPO)

WS

事業者

行政

WSの運営
メンバー募集

注:WS=ワークショップ

プロジェクトのプロセス

STEP1 もっと多くの人と交わろう

まちにはもっとたくさんの方がいて、いろんな意見を持っている人がいます。新たなメンバーも加えて東部地域の中でどんなことができたらいいか、考えます。また、既存の取組をよりよいものとする検討を行います。

STEP2 自分たちがやって楽しい企画を考えよう

STEP1で考えた企画を、実際に自分たちで行う場合、どこまでなら負担なくできるか、活動を続けられるか、費用面も含め、検討します。

ここでのポイントは、「無理しない」、「楽しんでやる」です。継続していくには、とても大切なことです。



このくらいの活動なら
楽しく、無理なくできるかも

STEP3 アイディアを磨き、企画のまとめ

何を、いつ、どこで、誰と、どんなふうにするか。その準備にどのくらい時間が必要か。スケジュールを立てながら、みんなで無理なくできる企画提案をまとめます。必要に応じて、市の補助金の申請手続きを進めます。

LEADING PROJECT B

まずはやってみようプロジェクト (トライアル活動支援制度)

プロジェクトが目指す成果

地域の住民や企業、大学、行政などが協力して、チャレンジします！！

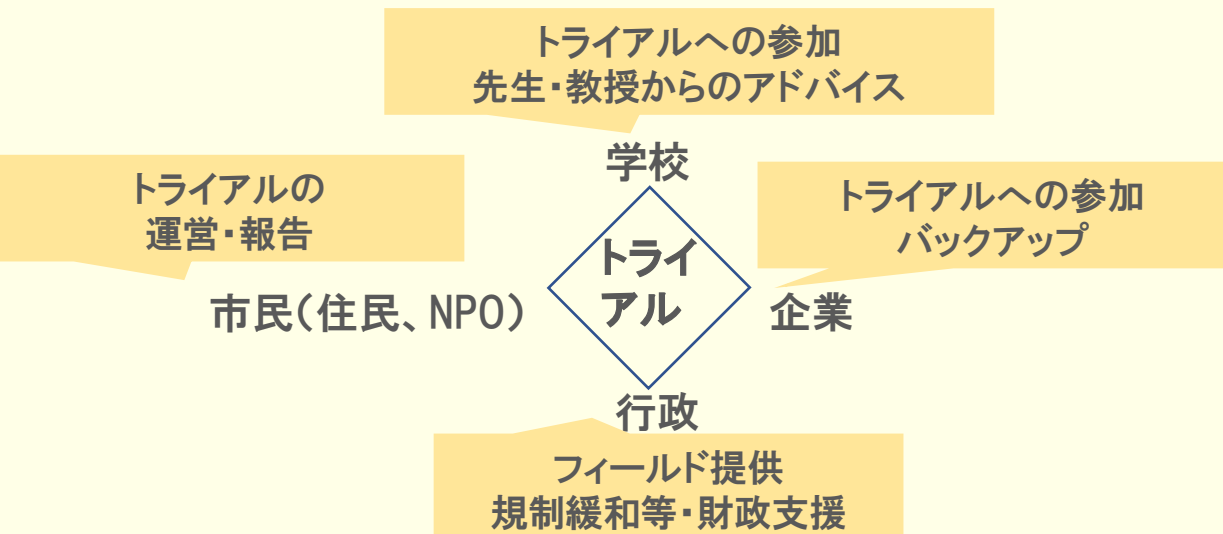
プロジェクトの概要

失敗をおそれず、やってみる！！



リーディングプロジェクトAで具体化されたアイデアや東部地域に関わる方が自発的に提案する新たな取組、既存の取組をさらにブラッシュアップした取組を市に提案し、実際にトライアルしてみます。提案された取組で、東部振興構想に合致する場合、認定支援と補助金支援の2種類でプロジェクトをサポートします。活動が円滑に進められるよう、市からの支援も活用し、無理なくトライしてみます。

- 【認定支援】公共施設の減免利用が可能
- 【補助金支援】認定支援に加え、
補助金上限20万円(初年度)
上限10万円(2年度)



無理せず
やれる範囲から進めましょう
まずはやってみましょう



東部振興構想の位置づけ

計画の推進 ①-1

計画の推進 ②-1、2

※トライアル活動実績

令和7年度	9取組
令和6年度	11取組
令和5年度	7取組
令和4年度	6取組

プロジェクトのプロセス

STEP1 企画提案をしよう

スケジュールに無理はないか、かかる費用は妥当なのか、確認したうえで、企画提案を申請書にまとめ、市に提出します。市の審査を受け、プロジェクト認定を受けます。

STEP2 まずはやってみよう

STEP1で立てた企画を、実際にやってみます。実施にあたっては、みんなで協力し(役割分担)、地域の声も聞き(交流)ながら進めます。また、やって「おしまい」とならないよう、イベント等に参加してくれた方々の感想をフィードバックしたり、次の取組に必要なお金を「稼ぐ」という仕組みづくりも併せて考えます。

STEP3 振り返ってみよう

やってみた企画の良かったところ(Keep)、悪かったところ(Problem)、次はこうしてみたい！(Try)について、整理し、報告会での発表や実施報告書の作成を経て、持続的な活動のためには何が必要か振り返ります(Check)。



LEADING PROJECT C

東部地域まちづくり活動パートナーシップ制度

プロジェクトが目指す成果

東部地域で進められるまちづくり活動は、様々な人たちのつながりで進められています。

プロジェクトの概要

地域を活性化していくうえで、まちづくり活動団体等、事業者等、行政が抱える課題は様々です。それぞれの課題を、それぞれが支え合える制度です。



東部地域で進められるまちづくり活動について、事業者など様々な人たちが、技術面や物資面、資金面などの支援を行うことで、持続的に、そして地域の力で自立して続けられるよう、支援を受けやすい環境を整えています。

活動団体等

- > 地域活動をはじめたい、継続していきたいけど、活動資金が足りない
- > 企業寄付を募りたいけど、営業訪問に時間をさけない

地域活動の主体

行政（市）

- > 行政資金（補助金）は、年度に縛られること、使用用途に制限があるなど自由度が低い
- > 行政資金（税金）は、人口減少等の影響から今後、減少していくことが予想される→限りがある

マッチング機能

事業者等

- > 技術（ノウハウ）・労力等はあるものの、地域貢献につなげていない
- > 地域が何を求めているのかわからない

技術・物資・資金等貢献

東部振興構想の位置づけ

計画の推進 ①-1

計画の推進 ②-1

※登録実績
 令和7年度 7団体、2事業者
 令和6年度 1団体

※マッチング実績
 令和7年度 1件

プロジェクトのプロセス

STEP1

まちづくり活動団体等が活動を登録、事業者等が支援内容を申出

東部振興構想に寄与するまちづくり活動を「東部地域まちづくり活動パートナーシップ制度」に登録し、市ホームページで、事業者等にまちづくり活動をPRします。また、事業者等は支援内容を事前に申出することもでき、円滑にマッチングを進めます。

STEP2

事業者等は支援したいまちづくり活動を検討

事業者等やまちづくり活動団体等は支援したい活動や受けたい支援があれば、行政（市）にマッチングの申込をします。その後、対面で顔を合わせ、支援の決定を行います。

STEP3

事業者等からの支援

事業者等は応援したい活動へ技術面や物資面、資金面等で、直接、まちづくり活動を支援します。その後、支援したことを市に報告します。市は、事業者等が支援したことを市ホームページで、市民等へ広く周知します。



プロジェクトが目指す成果

こどもも、おとなも、みんな笑顔で、こどもを中心に地域を元気にする輪が広がっています。

プロジェクトの概要

東部地域の様々なエリアでこどもマルシェが広がり、みんなが笑顔



- ①こどもに社会体験をしてほしい
 - ②子育てに疲れたママ・パパに癒しを提供したい
 - ③子育て世代の交流の場を創出したい
- そんな想いで活動を継続させています。これからも継続して活動ができるよう、地元事業者や取組に賛同していただける方から協力いただけるよう、つながり・連携を強化していきます。

こどもを中心に
つながれる
マルシェって
いい発想だね



運営補助・PR支援

地域協議会

企画・運営

こどもマルシェ実行委員会

こども
マルシェ

出店・運営補助・協賛

各種団体・事業者

行政

相談・支援

プロジェクトのプロセス

STEP1

持続性を意識した企画を検討します。

東部地域まちづくりパートナーシップ制度を活用しながら資金調達をはじめ、こどもマルシェの開催に必要な人材の確保など持続的なプロジェクトとなるよう企画を考えます。

STEP2

みんなで準備します。

ミーティングを重ね、役割分担を行い、出店者の募集、開催のPRなど、こどもが出店してよかった、楽しかったと思ってもらえるよう、入念な準備を行います。



STEP3

こどもマルシェを開催します。

こどもマルシェ実行委員会が、児童館や地域協議会など様々な人と協力しながら、こどもを中心に、みんなが笑顔になれる「こどもマルシェ」を実践します。開催後、収支をまとめ、協賛企業へ結果を報告します。そして、次年度以降の出店料や規模の検討を行います。



プロジェクトが目指す成果

地域の農家と地域住民が連携・協力して生活支援にもつながる交流の場を創出しています。

プロジェクトの概要

桃花台ニュータウンの緑道を使って、軽トラ市を開きます。



- ①地域の農家と地域住民の交流促進
- ②地産地消の促進
- ③高齢者の買い物支援

そんな3つ視点で活動しています。22年は1回、23年以降は2回と回数を増やしながら実施しています。参加者同士の交流ができるよう会館を休憩所として開放しています。開催時期も含め、出店してもらおう農家さんが出店しやすい環境であったり、農家さんに限らず、もっと多様な人が出店できる環境づくりを進めていきます。



あおぞら市場って農家も住民もみんな喜びプロジェクトだね!

出店・出店者のとりまとめ

農家・JA尾張中央

企画・運営

地域の交流促進
地産地消の促進

あおぞら市場

地域協議会

事業者・住民

行政

相談・支援

プロジェクトのプロセス

STEP1

JA尾張中央、地域の農家と連携を深めます

これまでに実施したあおぞら市場には、多くの地域住民が足を運び、定期開催を望んでいます。継続的な開催に向け、JA尾張中央や地域農家さんとの絆を深め、出店いただける農家を増やします。

STEP2

地域住民も出店できる企画

地域の農家さんだけでなく、家庭菜園をする地域住民、キッチンカーの出店、外国籍の人の出店など多様な人が出店したくなるあおぞら市場をめざすため、野菜のみならず、様々なお店の出店や、子どもが来なくなる催しなど様々な企画を検討します。

STEP3

あおぞら市場を開きます

多くの地域住民の交流の場とするため、効果的な周知方法を検討するとともに、広くPR活動を行います。また、JA尾張中央、出店者などと当日の役割分担をしたうえで、あおぞら市場を開催します。

地域に定着した市場となるよう継続して実施します。



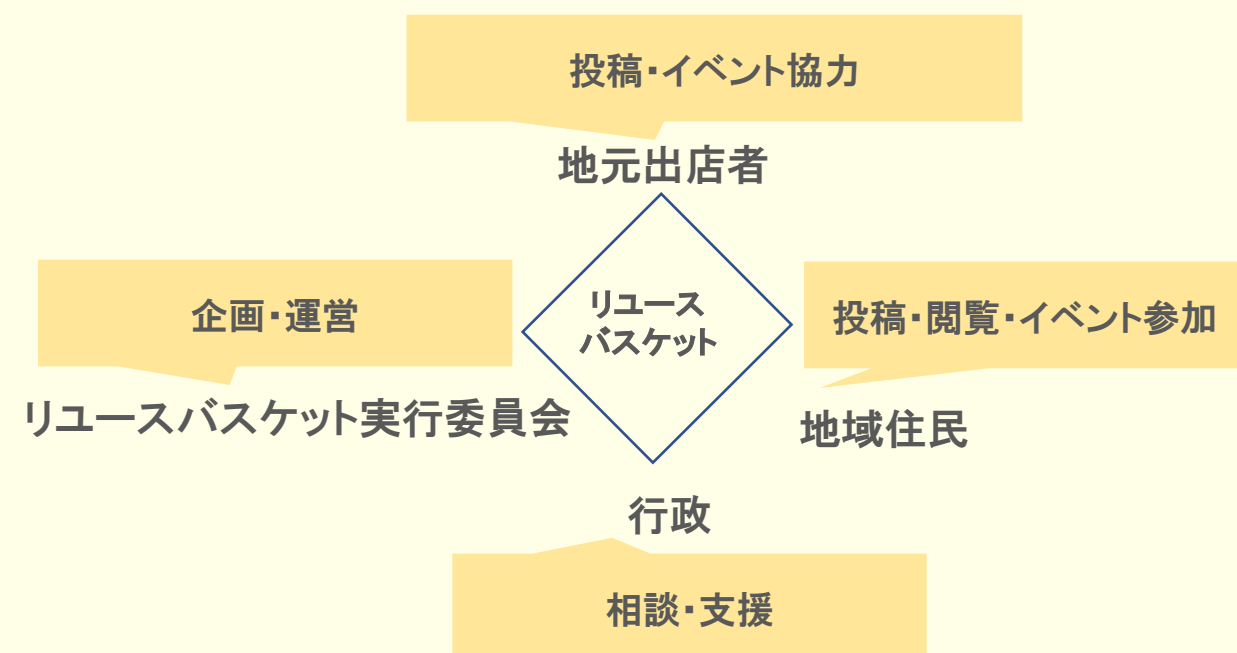
プロジェクトが目指す成果

地域の集まり場を創出し、にぎわいや住民交流が広がっています。

プロジェクトの概要

- ①空き家の利活用の提唱・促進
- ②地域の集まる場の提供
- ③若い世代、子育て世代、多世代交流の創出

を目的に、他地域に比べて空き家棟数が多い東部地域において、空き家を活用したイベントを開催することで、地域の居場所となることを目指すと同時に、空き家の活用方法を参加者へ提案します。これからも継続して活動ができるよう、無理なくメンバーのできることを活かしながら、地元事業者や取組に賛同していただける方から協力いただけるよう、つながり・連携を強化していきます。



プロジェクトのプロセス

STEP1 持続性を意識した企画を検討します。

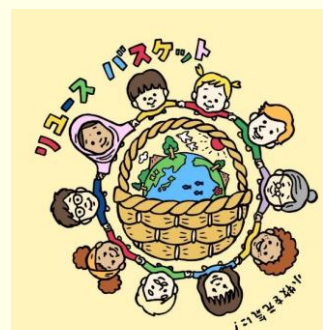
東部地域まちづくりパートナーシップ制度やプラットフォームを活用しながら資金調達をはじめ、イベントの開催に必要な人材や会場、駐車場の確保など持続的なプロジェクトとなるよう企画を考えます。

STEP2 みんなで準備します。

ミーティングを重ね、開催に向け、役割分担を行い、出店者の募集、イベントの開催周知など、参加者が楽しく、交流ができるイベントとなるよう、入念な準備を行います。

STEP3 イベントの開催

地域住民の居場所となり、多世代交流ができ、地域の知り合いを増やすイベントを開催します。アートワークショップや物販、キッチンカーなどといった多様なテーマを掛け合わせたイベントを開催します。



プロジェクトが目指す成果

DIYのワークショップを行うことで、DIYの普及につなげるとともに、参加者同士で作業することで、世代間の交流を促進しています。

プロジェクトの概要

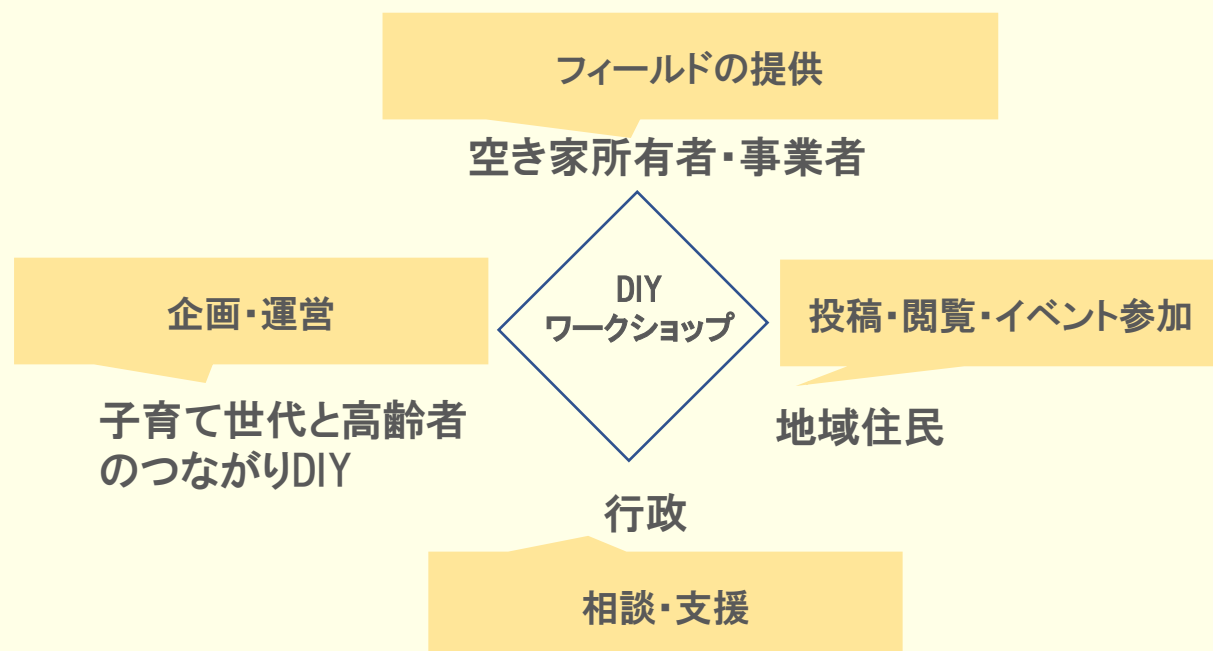
DIYワークショップを開催することで、

①参加者がDIY技術を習得し、自宅でも再現できるようになります。

②作業を通じて、子育て世代や高齢者などの世代間の協力や交流が進む関係ができています。

地域の公共施設や空き家にて、ワークショップを開催し、作業チームを子育て世代と高齢者の混成とし、作業を行うことで自然な世代間交流を促進します。

ワークショップ後も、参加者が自宅でも再現できるよう、SNSでつながり、必要に応じて自宅まで出張するなど、継続的なサポートを提供します。



プロジェクトのプロセス

STEP1

企画・開催場所の検討をします。

参加者が実用的かつ実践してみたいワークショップの内容を確認し、企画を検討します。また、DIYの効果や達成感を感じられる会場場所についても検討します。

STEP2

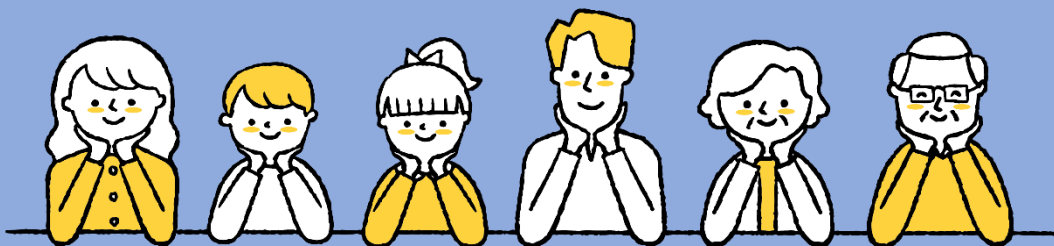
事前準備を入念に行います。

ミーティングを重ね、開催に向け、役割分担を行い、会場の調整や材料調達、ワークショップの進行案作成など、入念な準備を行います。

STEP3

ワークショップの開催

ワークショップの作業において、コミュニケーションがされるため、参加申込状況より、多世代で交流できるようチームを編成します。また、円滑に作業に入れるよう、全体自己紹介及びチーム内自己紹介の時間を設けるなど、交流を意識したワークショップを開催します。



新たな取組一覧

ビジョン

取組方針② 子育て世代

〈参考指標〉

安心して子育てができると思う

20歳代から40歳代の割合 : 71.9% (目指す方向 ↗)

取組名	実施主体	取組内容	事業期間		
			R8	R9	R10
NEW こども誰でも通園制度	小牧市	すべてのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、保護者の多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化するために全国一律で実施します。東部地域では、篠岡保育園、大城児童館、旭ヶ丘第二こども園で実施します。	○	○	○



実施中の取組一覧

ビジョン

I

取組方針① 高齢者

〈参考指標〉

生きがいを持って暮らしている

65歳以上の住民の割合：80.9%（目指す方向 ↗ ）

取組名	実施主体	取組内容	事業期間		
			R8	R9	R10
こまき巡回バス 「こまくる」 運行事業	小牧市	令和8年4月の再編にあたり、「こまくる」間の乗り継ぎの不便さの軽減やさらなる利便性の向上を図るため、東部地域を運行する15篠岡光ヶ丘線、18高根下末線の見直しを行いました。 交通空白地の交通手段の確保のため、18高根下末線を下末から小牧勤労センターまで延伸しました。また、15篠岡光ヶ丘線は、光ヶ丘4丁目付近のルートを変更しました。	○	○	○
おたすけ隊	篠岡学区地域協議会、 大城小学校区 地域協議会	不安や困りごとを抱えた高齢者を地域全体で支え、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、地域の高齢者のちょっとした困りごと支援を行います。	○		
食料品等の移動販売支援	ローソンストア100、 マックスバリュ東海(株)	買い物が不便だと感じている高齢者などを対象に移動販売車による食料品、生活必需品等の販売を行います。篠岡地区においても定期的に運行します。	○	検討	検討
高齢者移動支援事業	NPO法人生活支援 サービス・ラポール	高齢者や障がいのある方に対し、生活支援に関する事業を行い、住み慣れた地域での生活に係る問題の改善や解決を図り、安全な暮らしの向上と支え合いの地域づくりの増進に寄与することを目的に、篠岡地区など、福祉有償運送、生活の困り事支援、医療、介護等に係る相談等を実施します。	○	○	○
認知症カフェ	陶小学校区地域協議会、 篠岡地域包括支援センター	認知症の方やご家族・地域住民・専門職が集い、お茶を飲みながら認知症や介護のことなどを気軽に話せる、相談できる取組を行います。	○		
サロン活動	陶小学校区地域協議会、 桃ヶ丘小学校区地域協議会	中高年の憩いや集いの場として、活動を充実・発展させ「仲間づくり」の構築を図ります。	○		
ウォーキング事業	篠岡学区地域協議会 光ヶ丘小学校区地域協議会	住民同士の交流、健康増進、まちの魅力再発見を目的として、定期的に開催します。	○		

取組方針② 子育て世代

〈参考指標〉

安心して子育てができると思う

20歳代から40歳代の割合 : 71.9% (目指す方向 ↗)

取組名	実施主体	取組内容	事業期間		
			R8	R9	R10
学習支援事業「駒来塾」	小牧市	学力の定着が進んでいない中学生を対象に、ボランティアなどによる学習支援活動を実施します。東部地域では、東部市民センター等にて開催します。	○	○	○

取組方針④ 交流

〈参考指標〉

プラットフォームによる交流イベント回数 : 10回 (目指す方向 ↗)

取組名	実施主体	取組内容	事業期間		
			R8	R9	R10
地域こども食堂	地域こども食堂 ∞無限堂∞	下末地区において、「地域で多様な世代が交流できる場所をつくりたい」、「子育て中の親が一息つく場所をつくりたい」と地域住民が交流の場を創出します。月1回の頻度で開催します。	○	○	○
日本語教室	手まり塾	大城児童館において、令和元年9月より、土曜日 午後4時から6時で、外国籍の小中学生に対し、日本語学習支援をボランティアで実施します。	○	○	○
外国籍生徒との座談会	桃ヶ丘小学校区 地域協議会	桃ヶ丘小学校区地域協議会が桃陵中学校の外国にルーツのある生徒と“みんな「地域の人たち」助けあって笑顔で暮らせるために！”を実現するため、座談会を開催します。	○		
SUN SUN FESTA	SUN SUN FESTA 実行委員会	桃花台ニュータウン内にある集合住宅サンコート及び城山第3区でのコミュニケーション活性化のため、住民間交流の一環として開催します。核家族化が進む団地内でこどもから高齢者までが集い、まずは顔見知りになることを目的に取組みを推進します。	○	○	○
陶っ子凧あげ大会	陶小学校区地域協議会	親子や親同士の交流を深めるため、陶小学校児童とその親が凧あげをするイベントを開催します。	○		
もちつき大会	篠岡学区地域協議会	地域のこどもから高齢者まですべての世代の交流のため、もちつき大会を開催します。ついたもちは住民へ配布します。	○		
ミュージックフェスティバル	光ヶ丘小学校区 地域協議会	学区内で音楽活動などに励まれている個人、団体などが出演する地域のコンサートを開催します。	○		

〈参考指標〉

週1回以上公共交通機関を利用している地域住民の割合：12.3%（目指す方向 ↗）

取組名	実施主体	取組内容	事業期間		
			R8	R9	R10
(再掲) こまき巡回バス「こまくる」運行事業	小牧市	令和8年4月の再編にあたり、「こまくる」間の乗り継ぎの不便さの軽減やさらなる利便性の向上を図るため、東部地域を運行する15篠岡光ヶ丘線、18高根下末線の見直しを行いました。 交通空白地の交通手段の確保のため、18高根下末線を下末から小牧勤労センターまで延伸しました。また、15篠岡光ヶ丘線は、光ヶ丘4丁目付近のルートを変更しました。	○	○	○

2 取組方針② 新規ビジネス

〈参考指標〉

東部地域における起業・創業に対する補助件数：6件（目指す方向 ↗）

取組名	実施主体	取組内容	事業期間		
			R8	R9	R10
(再掲)高齢者移動支援事業	NPO法人生活支援サービス・ラポール	高齢者や障がいのある方に対し、生活支援に関する事業を行い、住み慣れた地域での生活に係る問題の改善や解決を図り、安全な暮らしの向上と支え合いの地域づくりの増進に寄与することを目的に、篠岡地区など、福祉有償運送、生活の困り事支援、医療、介護等に係る相談等を実施します。	○	○	○

2 取組方針① 農業・商工業

〈参考指標〉

農業サポーター制度登録者数：24人（目指す方向 ↗）

取組名	実施主体	取組内容	事業期間		
			R8	R9	R10
農業公園整備事業	小牧市	食の大切さを理解する場とするとともに、農業振興の発信の場とするため、令和8年から9年にかけて整備し、令和10年の開園を目指します。	整備	整備	開園
小牧ワイナリー	社会福祉法人AJU 自立の家	障がいのある人たちの就労支援の場として、野口区に2015年4月にオープン。ワイン事業に取組み、ぶどうの栽培、ワインの生産、加工、販売まで行っています。	○	○	○
モモ栽培サポーター養成講座	JA尾張中央、地域担い手育成総合支援協議会	モモの生産者の高齢化及び担い手不足の解消、モモの産地維持のため、栽培技術者の養成を栽培現場での実習を通して進めます。	○	○	○
充実 果樹栽培サポータークラブ	JA尾張中央、春日井市、小牧市、地域担い手育成総合支援協議会	養成講座受講生に対し、果樹栽培サポータークラブに加入していただき、援農コントラクターとしてモモ生産者を支援する取組です。令和8年よりブドウ生産者への支援を本格的に実施します。	○	○	○

3 取組方針① 地域資源

〈参考指標〉

市のホームページ（東部まちづくりニュースのページ）：3,293件の年間アクセス件数
 （目指す方向 ↗）

取組名	実施主体	取組内容	事業期間		
			R8	R9	R10
こまきゴールド(桃)のPR	こまきゴールド生産推進協議会JA尾張中央	「こまきゴールド」は、小牧市(上末)の桃生産者の桃園で発見された新品種です。平成30年1月に農林水産省に登録を出願しました。数年間の経過観察を経て変異なく安定して生産できると認定され、令和4年10月に登録され、令和6年6月に初出荷されました。新たな地域特産物としてブランド特設サイトで情報を随時発信します。	○	○	○
名古屋コーチンのPR	小牧市、(一社)小牧市観光協会、小牧商工会議所	小牧市(池之内)から始まった名古屋コーチンという地域資源を最大限に活用し、「名古屋コーチン発祥の地」として、名古屋コーチンプロジェクトの特設サイトでのPRや、名古屋コーチンを活用した商品・メニュー開発に対する開発奨励金の交付などを実施します。	○	○	○
大草マメナシ自生地の保全・発信	小牧市・市内企業・大学	東部丘陵地にある愛知県指定天然記念物「大草のマメナシ自生地」の保護・保存・PRのため、除草や実生の調査、観察会を開催します。	○	○	○
市民四季の森イベント開催事業	小牧市	「バラ・アジサイまつり」の好評な企画を継承しつつ、開催時期を分散させるなど、効果的に開催するイベント「四季彩フェスタ」を実施します。	○	○	○

3 取組方針② 住まい

〈参考指標〉

戸建て住宅の空き家数：166棟（目指す方向 →）

取組名	実施主体	取組内容	事業期間		
			R8	R9	R10
空き家対策事業(セミナー・相談会)	桃花台を考える会	「地域に空き家をつくらない」を目的に、地域住民向けに自分の家を将来、空き家にしない方法やポイントなどの内容で我が家の相続セミナー及び個別相談会を実施します。	○		
防災備蓄推進事業	光ヶ丘小学校区地域協議会	令和3年度作成した計画に基づき防災物資の備蓄を行うとともに、住民へ個人での備蓄を推進・啓発を行います。	○		

〈参考指標〉

区や市民活動団体などが開催する活動に過去1年間で：29.4%
1回以上参加したことがある地域住民の割合（目指す方向 ↗）

取組名	実施主体	取組内容	事業期間		
			R8	R9	R10
桃花台音楽まつり	桃花台を考える会	地域住民の音楽文化醸成のため、音楽イベントを年2回開催します。2回のうち1回は東部地域の住民等による演奏会を検討します。	○		
桃花台音楽講座	桃花台を考える会	東部地域出身のプロピアニストを講師に招き、音楽文化を醸成するため、東部地域の住民向けに音楽講座を開催します。	○		
(再掲)SUN SUN FESTA	SUN SUN FESTA 実行委員会	桃花台ニュータウン内にある集合住宅サンコート及び城山第3区でのコミュニケーション活性化のため、住民間交流の一環として開催します。核家族化が進む団地内でこどもから高齢者までが集い、まずは顔見知りになることを目的に取組みを推進します。	○	○	○



東部まちづくりの進捗確認

アクションプランの実行

リーディングプロジェクト

新たな取組

実施中の取組

取組方針の
達成度の確認

取組の改善、追加

10の参考指標（高齢者～住民活動） のCheck

まちの状態の把握
まちづくりの方向性の確認

重要業績評価指標（KPI）のCheck

KPI(重要業績評価指標)	基準値 (基準年)	目標値 (令和8年)	目標値 (令和13年)	測定方法
東部地域の生産年齢人口割合 ※15歳～64歳	63.4% (H27)	54.0%	50.7%	国勢調査データを基に算出します。

設定する目標値は、令和8年度については、国勢調査データに基づいた将来人口見通しで示す令和7年推計値53.0%を1%上昇させることとします。令和13年度については、令和12年推計値48.7%を2%上昇させることとします。

東部地域の将来像の実現



東部まちづくりの進捗状況って
どう把握していくのかな？？



アクションプランは、リーディングプロジェクト、新たな取組、実施中の取組の 카테고리と併せて、構想に記載するキーワード（取組方針）ごとにも分類されているんだよ。



へ～そうなんだ。
いろいろなカテゴリーに分類されていることはわかったけど、それがどう進捗状況の把握につながるのかな？？



構想には、まちの状態を把握する指標（KPI）と、取組方針（キーワード）ごとに参考指標を設定してあるんだよ。

それぞれ、アクションプランで取組を進めて、構想で定める指標をCheckすることで、まちづくりの進捗状況を把握するんだよ。



なるほど！
構想の指標をCheckして、アクションプランの取組をみて、今後どんな取組が必要なのか、把握していくんだね！！

小牧市民憲章

市制施行 30 周年

わたくしたち小牧市民は、小牧を

- 一、健康で生きがいのある 明るいまちにしましょう。
- 一、感謝と思いやりのある あたたかいまちにしましょう。
- 一、緑とやすらぎのある 美しいまちにしましょう。
- 一、高い文化と教養のある 豊かなまちにしましょう。
- 一、希望と働く喜びのある 活気あふれるまちにしましょう。

小牧市民憲章は、市民の道しるべとして、健康で明るい生活を送るため、また、市民一人ひとりの心構えや果たすべき役割を明確化し、心ふれあう豊かな社会を形成するため、小牧市制施行30周年を記念し、昭和60年5月15日に制定されました。

こども夢・チャレンジ No.1 都市宣言（要約）

市制施行 60 周年

私たちは、こどもの夢への挑戦をまち全体で応援することで、こどもを中心に世代を越えて市民がつながり、支え合う、すべての市民が暮らしやすい、あたたかいまちになっていくと確信します。

そこで、私たち小牧市民は、

- 一、こどもの夢への挑戦を応援することで元気になるまち
- 一、世代を越えて市民のつながりが生まれるまち
- 一、支え合うことでさらに住みよくなっていくまち

このようなまちの実現に向け、小牧市を「こども夢・チャレンジ No.1 都市」とすることを、ここに宣言します。

こども夢・チャレンジNo.1都市宣言は、小牧市の特徴である「子育て支援が充実している」姿を一層高め、「こどもを中心に世代を越えて市民がつながり、支え合う、すべての市民が暮らしやすい、あたたかいまち」を小牧市全体で目指し、市内外に発信していくため、小牧市制施行60周年を記念し、平成27年5月17日に宣言されました。

小牧市環境都市宣言（要約）

市制施行 70 周年

小牧市環境像「尾張野の 四季の恵みが 実感できるまち」

- 一、カーボンニュートラルを実現し、持続可能なまちを目指します
- 一、資源循環を推進し、環境と産業が調和するまちを目指します
- 一、良好な環境を保全し、自然と共生するまちを目指します

小牧市環境都市宣言は、小牧市制施行70周年という節目の年に、今一度、私たちの生活・事業活動を見直し、新たな課題に取り組むことを明言し、豊かで美しい自然を未来へ残すために環境都市宣言を変更し、令和7年5月18日に小牧市制70周年記念式典にて、宣言されました。